

日本語字書・辞書について

—参考にすべき専門書の利用とその実際—

西崎 亨 編『日本古辞書を学ぶ人のために』(世界思想社 1995 ¥3495刊)

第一章 古辞書へのいざない

西崎 亨

第一節 はじめに

第二節 辞書とは

第三節 辞書の分類

第四節 辞書史の時代区分

第五節 古辞書を扱う場合の問題点

第六節 古辞書と文学研究

第二章 古辞書の歴史

第一節 奈良・平安時代の辞書

山田健三

第二節 鎌倉時代の辞書

江口泰生

第三節 室町時代の辞書

萩原義雄

第四節 江戸時代の辞書

湯浅茂雄

第三章 主要辞書各説

西崎 亨・乾 善彦・萩原義雄

付 章 年表・目録

古辞書略年表

西崎 亨

古辞書影印刊行目録

西脇朗子・萩原義雄

古辞書関係研究文献目録

山田健三

《参考となるHP》

★ [日本のいじぐわく古辞書](http://www.ijcgv.jp/gksho)

★ <http://www.sanseido-publ.co.jp/publ/nihonmokotoba.kojisyo.html>

★ [辞書の世界・江戸時代篇](http://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/rekish.html)(岐阜大学佐藤貴祐さん)↑[室町時代の節用集](http://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/rekish.html)(古本節用集)

★ <http://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/rekish.html>

★ [シリーズ・資料探訪43「節用集」編](http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/iyouseu/tsukubane/siryou43.html)(筑波大学大倉 浩さん)

★ <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/iyouseu/tsukubane/siryou43.html>

★ 『和製漢字の辞典』未定稿集

★ <http://homepage2.nifty.com/TAB01645/ohara/>

★ [漢字の検索方法について](http://rose.hucc.hokudai.ac.jp/~o16404/shikeda/journal/01/ito1999.pdf)(北海道大学伊藤ゆう子さん)

★ <http://rose.hucc.hokudai.ac.jp/~o16404/shikeda/journal/01/ito1999.pdf>

現代の日本国語辞書&字書

小学館『日本国語大辞典』第二版、十三冊＋補遺一冊 … CD-ROM版はナシ。
但し、ネット配信では「日国オンラインコム」ネットがあり、凡てを検索するには有償。

<http://nikkoku.japanknowledge.com/>

大修館『大漢和辞典』補訂版

三省堂『大辞林』第二版…CD-ROM版

岩波書店『広辞苑』第五版…CD-ROM版

学研『国語大辞典』〔昭和五十三年刊〕…初出用例は現代文から採録する。

三省堂『新明解国語辞典』

新潮『現代国語辞典』〔昭和六十年刊〕…明治以降の資料名および文庫本・叢書本・個人全集と明示する。
その他

現代の古典語辞書

三省堂『時代別国語辞典』上代編、一冊

三省堂『時代別国語辞典』室町時代編

角川『古語大辞典』…CD-ROM版

岩波『古語辞典』

その他

新潮『国語辞典』古語・現代語増補改訂版…現代語と古典語両用する国語辞書

日本の「国語辞書」について知りたい人に読んでもらいたい書物

▼松井栄一著『国語辞典はこうして作る／理想の辞書をめざして』〔二〇〇六年・港の人刊〕
明治時代以降の文献資料を考察する際、資料である作品名、例えば樋口一葉の『たけくらべ』を資料とする場合、単に作品名を記載して引用するのではなく、どのテキスト・どのデータ本に依據して用例を採取したのかを辞書類は記録する作業が必要不可欠となつてきている。それは、テキストに拠つて文字使いや表記法が一つではないことに関わる問題であるからである。

「初出本」「原本」「初版本」「再版」「三版」と続き、ここには増補や補訂、改編など、時に応じてその本文内容そのものが変容していくからなのである。

http://www.shinjuku-shobo.co.jp/new5-15/shohyo/%23346_Kokugo.html

▼三省堂『新明解国語辞典』第五版の主幹を務めてきた山田忠雄博士は、「新解さん」の名で知られたように、独白体の意味内容、その語用例をもってこの辞典を編纂展開してきました。たとえば、「ほんじん【凡人】」、「あだな【渾名】」の見出し語項目を繙いてみますと、

ほんじん【凡人】「名」自らを高める努力を怠ったり、功名心を持ち合わせなかつたりして、

他に対する影響力が皆無のまま一生を終える人。「マイホーム主義から脱することの出来ない大多数の庶民の意にも用いられる」

あだな【渾名】「名」その人の性行・特徴などをとらえて、他の人が批評(仲間うち)的な意識で付けた呼び名。「いつもーでばかり呼んでいるので本名が思い出せない」

とあって、他の国語辞書には言い切れずじまいの意義解説がここからは読み取れるのである。この新明解は、第三版では、主幹の山田忠雄博士の名は見えず、逆にこの第三版にあった見坊豪紀けんぼうひさとしさんの名が消えている。この経緯は第三版を見て第四版を手にした方は、奇異に感ずることであろう。

★《参考文献資料》赤瀬川原平著『新解さんの謎』[刊]を読む！

《課題》『新明解国語辞典』の親見出しの一つ、「むし【虫】」の語の意義説明を忠実に入力し、その説明のなかで特徴たる部分を指摘し、そのことについて解釈を試みなさい。

▼北原保雄『達人の日本語』[文春文庫、二〇〇五年一〇月刊]に所載の「辞書の話」[77頁〜98頁]に、

字典・ 辞典・ 事典、
字書・ 辞書・ 事書、
字引・ 辞引・ 事引
もじ典 じつげい典 じつご典

(1) 項目の登載 用例：語彙資料の整備↓語彙索引の作成

(2) 項目数

(3) 項目の質 あらゆる分野における専門語

(4) 項目の内容構成 漢字表記、送りがな、発音(アクセント)、語源、意味、用法、用

例

(5) 語義解説 「語誌」欄

山田俊雄の示した「ジシヨ」の概念図

(A) 字書

① 小學教科書——千字文・急就篇——(往來物) 「語彙連想」

字形分類の字書——説文・玉篇——倭玉篇・名義抄 「部首別」

② 韻による字書——韻書——切韻・廣韻——聚分韻略・いろは韻 「四声別・反切」

(B) 辞書

③ 意義分類體の字書・辞書(類書)——釋名・爾雅——字類抄・節用集・いろは集 「いろは別・部門別」

④ 佛教經典の卷末要語解 glossary (用語索引 concordance)——「語の総索引」

大般若經音義・一切經音義・日本靈異記注

⑤ 歌語辞書 語釋・用語集・かなづかひ書

連歌俳諧辞書 作法書・方言辞書・諺集——物類稱呼・俚言集覽

物語その他の用語を加へて 和語辞書——雅言集覽・倭訓栞